

平成 30 年度環境調査報告書

(ダイオキシン類編)

奈 良 県

目 次

1. 目 的	1
2. 測定方法	1
3. 調査結果	2
(1) 大気	2
(2) 公共用水域 (水質・底質)	4
(3) 地下水	6
(4) 土壌	7

1. 目的

ダイオキシン類対策特別措置法（以下、法という。）第 26 条の規定に基づき、環境中の大気、水質及び土壌についてダイオキシン類の常時監視を実施した。

2. 測定方法

(1) 大 気

「ダイオキシン類に係る大気環境調査マニュアル（平成 20 年 3 月 環境省 水・大気環境局総務課ダイオキシン対策室、大気環境課編）に準拠。

(2) 公共用水域（水質）

J I S K 0 3 1 2 に準拠。

(3) 公共用水域（底質）

「ダイオキシン類に係る底質調査測定マニュアル（平成 21 年 3 月 環境省 水・大気環境局水環境課編）」に準拠。

(4) 地下水

J I S K 0 3 1 2 に準拠。

(5) 土壌

「ダイオキシン類に係る土壌調査測定マニュアル（平成 21 年 3 月 環境省 水・大気環境局土壌環境課編）」に準拠

3. 平成 30 年度の調査結果

(1) 大 気

○ 測定地点・測定回数

8 地点（大和平野北部 4 地点、中部 2 地点、南部 2 地点）において年 2 回（夏季（7 月～9 月）、冬季（1 月～2 月））測定を行った。

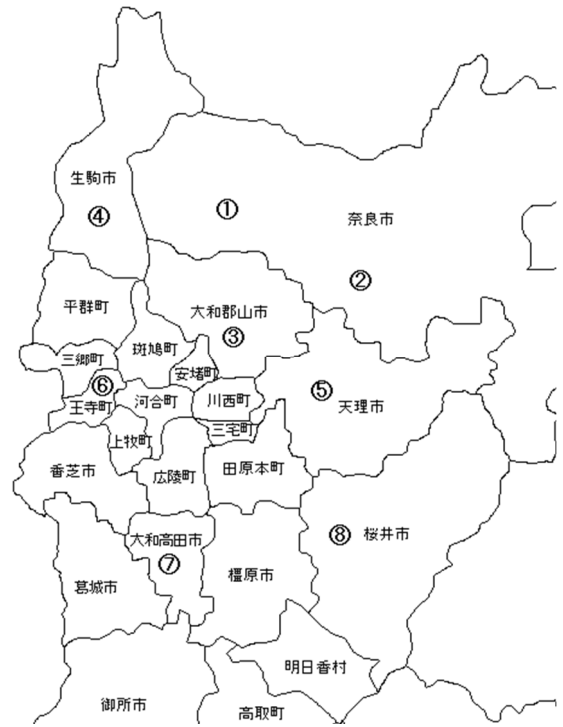


図 1 ダイオキシン類（大気）測定地点

表 1 ダイオキシン類（大気）測定地点

測定地点		測定対象	測定回数	
北 部	①奈良市	百楽園	大気	2 回/年
	②奈良市	西木辻町	大気	2 回/年
	③大和郡山市	馬司町	大気	2 回/年
	④生駒市	山崎町	大気	2 回/年
中 部	⑤天理市	丹波市町	大気	2 回/年
	⑥北葛城郡王寺町	王寺	大気	2 回/年
南 部	⑦大和高田市	大中	大気	2 回/年
	⑧桜井市	粟殿	大気	2 回/年

○ 測定結果（大気）

全地点の平均値は 0.015pg-TEQ/m³、年平均値の濃度範囲は 0.0083～0.024pg-TEQ/m³であり、全ての地点で環境基準（0.6pg-TEQ/m³）を下回っていた。

表 2 ダイオキシン類（大気）測定結果（平成 30 年度）

（単位：pg-TEQ/m³）

調査地点		調査時期		年平均値
		夏 期	冬 期	
北 部	① 奈良市百楽園	0.0081	0.0084	0.0083
	② 奈良市西木辻町	0.010	0.0098	0.0099
	③ 大和郡山市馬司町	0.014	0.014	0.014
	④ 生駒市山崎町	0.010	0.019	0.015
中 部	⑤ 天理市丹波市町	0.012	0.020	0.016
	⑥ 北葛城郡王寺町	0.014	0.033	0.024
南 部	⑦ 大和高田市大中	0.013	0.018	0.016
	⑧ 桜井市栗殿	0.012	0.014	0.013

< 環境基準 > 0.6pg-TEQ/m³

※ 環境基準達成状況は、同一測定点における1年間の全ての検体の測定値の算術平均値で評価

表 3 ダイオキシン類（大気）調査結果の経年変化

（単位：pg-TEQ/m³）

	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度
年平均値	0.020	0.017	0.012	0.015	0.015
測定地点数	県 : 7 地点 奈良市 : 2 地点	県 : 6 地点 奈良市 : 2 地点			

(2) 公共用水域（水質・底質）

○ 測定地点・測定回数（水質・底質）

1) 水質

4水系6地点（大和川水系1地点、紀の川水系1地点、淀川水系3地点、新宮川水系1地点）において年1回、大和川水系1地点で年4回実施した。

2) 底質

4水系7地点（大和川水系2地点、紀の川水系1地点、淀川水系3地点、新宮川水系1地点）において年1回実施した。

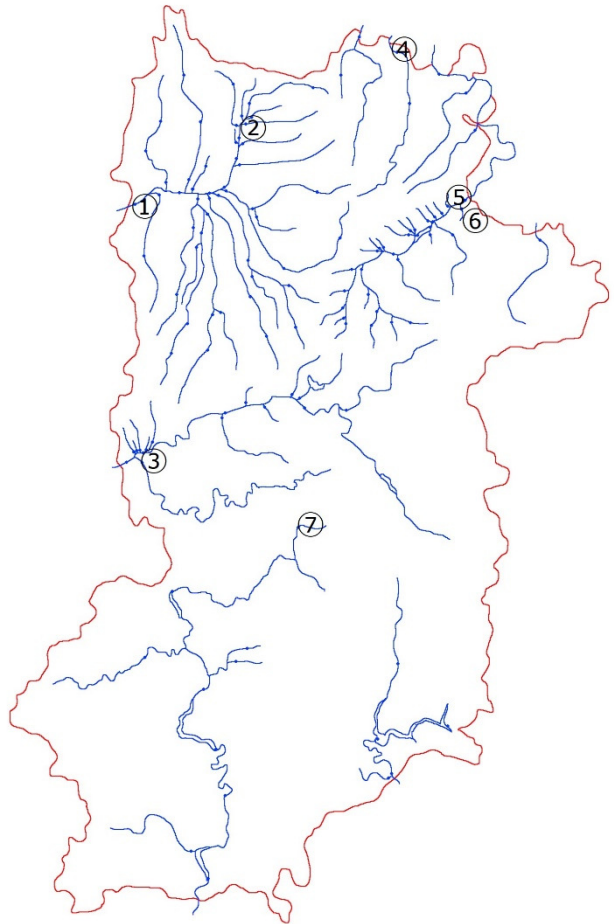


図 2 ダイオキシン類常時監視地点
（公共用水域（水質・底質））

表 4 ダイオキシン類常時監視地点（公共用水域（水質・底質））

	測定地点			測定対象	測定回数
	水系名	河川名	地点名		
①	大和川	大和川	藤井	水質・底質	水質：4回/年 底質：1回/年
②	大和川	佐保川	打合橋	水質・底質	1回/年
③	紀の川	紀の川	大川橋	水質・底質	1回/年
④	淀川	布目川	鷺千代橋	水質・底質	1回/年
⑤	淀川	仮屋川	仮屋川流末	水質・底質	1回/年
⑥	淀川	滝谷川	滝谷川流末	水質・底質	1回/年
⑦	新宮川	洞川	持影橋	水質・底質	1回/年

○ 測定結果

1) 水質

全地点の平均値は 0.23pg-TEQ/L、年平均値の濃度範囲は 0.016~0.87pg-TEQ/L であり、全ての地点で環境基準（1pg-TEQ/L）を下回っていた。

2) 底質

全地点の平均値は 0.22pg-TEQ/g、年平均値の濃度範囲は 0.036~0.50pg-TEQ/g であり、全ての地点で環境基準（150pg-TEQ/g）を下回っていた。

表 5 ダイオキシン類（公共用水域）測定結果（平成 30 年度）

	測定地点			ダイオキシン類毒性等量		
	水系名	河川名	地点名	水質 (pg-TEQ/L)	底質 (pg-TEQ/g)	
①	大和川	大和川	藤井	0.26	年平均 0.35	0.50
				0.81		
				0.23		
				0.097		
②	大和川	佐保川	打合橋	0.87	0.24	
③	紀の川	紀の川	大川橋	0.067	0.21	
④	淀川	布目川	鷺千代橋	0.085	0.10	
⑤	淀川	仮屋川	仮屋川流末	0.19	0.23	
⑥	淀川	滝谷川	滝谷川流末	0.044	0.24	
⑦	新宮川	洞川	持影橋	0.016	0.036	

<環境基準> 水質：1 pg-TEQ/L、底質：150pg-TEQ/g

※ 環境基準達成状況は、同一測定点における1年間の全ての検体の測定値の算術平均値で評価

(3) 地下水

○ 測定地点・測定回数

8地点（5市町村）においてそれぞれ年1回実施した。

○ 測定結果

8地点の平均値は0.019pg-TEQ/L、濃度範囲は0.015～0.037pg-TEQ/Lであり、全ての地点で環境基準（1pg-TEQ/L）を下回っていた。



表 6 ダイオキシン類（地下水）測定結果（平成30年度）

測定地点		測定回数	ダイオキシン類 毒性等量 (pg-TEQ/L)
奈良市	月ヶ瀬石打	1回	0.015
奈良市	都祁吐山町	1回	0.015
桜井市	川合	1回	0.037
桜井市	今井谷	1回	0.016
宇陀市	大宇陀	1回	0.017
宇陀市	菟田野	1回	0.016
吉野町	矢治	1回	0.016
東吉野村	小	1回	0.016

<環境基準> 1 pg-TEQ/L

※ 環境基準達成状況は、同一測定点における1年間の全ての検体の測定値の算術平均値で評価

(4) 土 壤

○ 測定地点・測定回数

12 地点（一般環境 9 地点、発生源
周辺 3 地点）において年 1 回測定し
た。

○ 測定結果

12 地点の平均値は 0.19pg-
TEQ/g、濃度範囲は 0.0034~0.86pg-
TEQ/g であり、すべての地点で環境
基準(1,000pg-TEQ/g)を下回っていた。

一般環境として調査した 9 地点
の平均値は 0.21pg-TEQ/g、発生源周
辺として調査した 3 地点の平均値
は 0.13pg-TEQ/g であった。



○ ダイオキシン類（土壌）調査結果（平成 30 年度）

市町村名		分類	測定回数	ダイオキシン類 毒性等量 (pg-TEQ/g)
奈良市	西登美ヶ丘	一般環境	1 回	0.17
葛城市	南藤井	一般環境	1 回	0.86
	八川	一般環境	1 回	0.013
	當麻	発生源周辺	1 回	0.037
天川村	沢谷	一般環境	1 回	0.36
野迫川村	中	一般環境	1 回	0.15
十津川村	重里	一般環境	1 回	0.089
	小原	発生源周辺	1 回	0.34
下北山村	下池原	一般環境	1 回	0.2
	寺垣内	発生源周辺	1 回	0.0034
上北山村	河合	一般環境	1 回	0.033
東吉野村	小川	一般環境	1 回	0.0065

< 環境基準 > 1000 pg-TEQ/g

※ 環境基準達成状況は、同一測定点における 1 年間の全ての
検体の測定値の算術平均値で評価

一般環境調査：特定の発生源の影響を想定せずに実施する調査。
発生源周辺調査：特定の発生源として一般廃棄物の焼却場を設定し、その周辺において実施する調査。



奈良県エコキャラクター な～らちゃん